

学校経営方針（中期経営目標）		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
【教育目標】 「ふるさとを愛し、多様な人とつながりながら学び、探究し続ける子どもの育成」 【めざす生徒像】 (1) 主体的に学び続ける子ども (2) 人を思いやり仲間と共に高め合える子ども (3) 粘り強く挑戦し続ける子ども 【重点課題】（社会的自立につなぐ教育） (1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図り、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善の推進と学力の向上 (2) 「探究的な学び」を通じて課題解決能力をはぐくむ教育の推進 (3) つながる力を生かした豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止		【授業改善と学力の向上】 ○学び合いを軸とする授業を展開することにより、多くの生徒が自分の考えを深めることができていると感じられるようになった。 △多様な学びのスタイルを視野に入れながらも、子ども達をつなぐ視点を大切に、「探究的な学び」を大切にする教育活動をととして、課題解決能力のさらなる育成を目指すことが大切である。 △家庭学習の状況に不十分さを残す中で、ICTを活用して、将来にわたって学び続ける生徒を育成するための取組を組織的に展開していく必要がある。 【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】 △不登校出現率の減少を重点として取り組んできたが、昨年度は出現率が上昇に転じ、不登校の解消に至らない生徒もいる。今後さらなる社会的・職業的自立に向けた組織的な取組の展開と家庭との連携が重要である。	【授業改善と学力の向上】 (1) 多様な学びのスタイルを視野に入れながら、子ども達をつなぐ視点を大切に、「主体的・対話的で深い学び」から「探究的な学び」につながる授業改善を図っていく。 (2) 学び合いをととして主体性を引き出し、コミュニケーション能力やつながる力など、非認知能力の育成を意識した教育活動の展開を図る。 (3) 家庭学習の状況に係る課題を改善するため、ICTを活用して、将来にわたって学び続ける生徒を育成するための取組を組織的に展開する。 【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】 (1) 豊かな人間性を育成するため教職員の人権感覚を高め、すべての生徒との心の触れ合いを大切にする指導を徹底する。 (2) 「つながる力」の育成を意識した教育活動を展開し、将来的孤立の未然防止に努めるとともに、すべての生徒に「居場所」をつくる取組を展開する。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
学校教育指導の重点・	教育課程学習指導 ◇認知能力と非認知能力を一体的に伸長させる学力向上・授業づくり (1) 「協働的な学び」を充実するための授業改善とICT機器の活用 (2) 個別指導の充実と学習機会の場の提供と評価 (3) 授業とつなげる家庭学習の工夫	◇「協働的な学び」をととして主体的に他者とかかわり、多様な考え方を自らの思考に落とし込み考察し、解決方法を導き表現できる力を育む探究的な授業への移行 ◇共同編集や他者参照など、タブレットやICT機器を効果的に活用した授業展開の工夫 ◇「主体的・対話的で深い学び」「探究的な学び」を実現する授業づくりについての授業研究会と毎月の教科部会の定例化 ◇グローバル人材の育成と英語力の向上 ◇教科授業、あるいは「総合的な学習の時間」、道德教育、特別活動を効果的・有機的に関連させた教科横断的な教育実現のためのカリキュラムマネジメントの推進 ◇家庭学習の充実を含む個別最適学習の推進 ◇特支学級・別室生徒を含む学習面の課題をもつ全ての生徒への責任あるフォローアップと進路実現	○複線型授業を積極的に取り入れ、生徒同士のかかわりや気づきを大切にした授業が定着しつつあり、授業中の生徒の活動が活性化し、学力向上にも繋げることができた。 ○タブレット等のICT機器活用が進み、新たな授業スタイルを生み出すことができた。 ○外部講師を招聘した公開授業や研修会を継続して開催したり、自主的な授業改善を組織で展開したりして、多くの教師の授業スキルが向上した。 ○市海外派遣、SeaLabo、リーディングコンテスト等に本校生徒が積極的に参加し、グローバルリーダーとしての力を身に付けることができた。 ○校内フリースクール運用方針に基づいて、別室生徒の学習支援を組織で展開した。 ○タブレットを活用し、授業と家庭学習の関連付けや学習習慣の定着を進めていく必要があるとともに、「指導の個別化」を具現化していくための教師の意識改革とDXの重点投入が今後求められる。

保 幼 小 中 一 貫 教 育 の 諸 計 画 及 び 各 学 園 の 重 点 等 を 基 盤 と し て	生徒指導	◇発達支持的生徒指導の展開 (1) 教師と生徒、生徒同士のつながりを重点に置いた生徒指導の展開 (2) 主体的活動の活性化	◇自己指導能力の育成を意識した発達支援的な関わりを重視した学級経営 ◇生徒の思いに即応できる相談窓口の複数設置と面談等の充実 ◇いじめの早期発見・早期対応・未然防止 ◇不登校・不適応傾向生徒に係る課題の解決に向けた教育相談体制の強化 ◇集団の繋がりとうねりを生み出す学年の枠を越えた活動 ◇主体的活動の積極的な外部発信 ◇学校のきまりに係る討議の活性化や生活向上の取組の展開	○かかわりを大切にした発達支持的生徒指導を展開し、学級等における心理的安全性が向上した。 ○タブレットを活用した本校独自の相談窓口や市Standbyを活用して、生徒の悩みにリアルタイムで対応できるようになった。 ○スクールカウンセラーやSSWの助言を、積極的に校内会議やコンサルテーションに生かした。 ○コミュニケーションやキャリアの意識を育てる講演会やワークショップの開催などをおして、非認知能力を育てる取組を展開した。 ○生徒会活動や峰山学園の取組を活性化し、地域と協働して取組を進めた。
	健康(体育)・安全	◇保健教育の充実と管理の徹底 ◇安全意識の向上の取組 ◇部活動の充実と体力の向上	◇命の大切さや自他の心身の健康安全への理解を図る取組の充実 ◇継続的な交通安全指導と意識の向上を図る取組の展開	○毎学期の避難訓練に加えて、今年度は京丹後警察の協力を得て不審者対応訓練を実施することができた。 ○自転車関連の事故増加を機に、生徒会・PTA・警察等と連携した交通安全運動を地域で展開できた。
	特別支援教育	◇合理的配慮の継続的支援と組織的対応 (1) きめの細かい個別支援 (2) 家庭、関係機関との連携強化 ◇実践的指導力の向上 (1) 校内指導体制の機能化 (2) 支援の充実と研修の充実	◇特別支援教育関係文書3点セット（アセスメントシート・個別的教育支援計画・個別の指導計画）の活用による生徒支援の充実 ◇通常学級における特別に支援を要する生徒に対する個に応じた指導の充実 ◇定期的な研修の実施による全教職員の資質・能力の向上	○保護者との連携を軸にした詳細な見立て、指導資料、移行支援資料などを組織的に作成・運用し生徒の指導や支援に生かすことができた。 ○スクールサポーター等の丁寧な支援により、通常学級、特別支援学級、別室など、様々な場の生徒に、適切な指導を展開することができた。 ○コーディネーターを中心とした組織的指導体制が確立しており、校内研修等も充実した。
	人権教育	◇児童生徒の集団の中での人間関係づくり (1) 成長し合う人間関係の形成 (2) 自尊感情の育成と他者への理解・尊重・共感性の涵養 ◇教職員の人権意識の高揚 (1) 人権尊重の理念についての認識深化 (2) 研修の推進	◇全教育活動における、互いを理解・尊重しながら信頼で結ばれ成長し合える人間関係の形成 ◇自尊感情の育成と他者理解・尊重、共感性の涵養 ◇同和教育の成果と手法への評価を踏まえた継承と活用、あらゆる人権問題についての研修の推進 ◇一人ひとりを大切にする教育の推進とコンプライアンスの堅持のための、望ましい教職員の行動及び指導に係る研修、職場環境の整備の充実及び業務改善の推進	○『心を広げるコミュニケーション講座』として、他者理解や人権の尊重を基盤に置き共生・協働を希求する教育プログラムを展開した。 ○生徒会活動の活性化や峰山学園一体となった取組などをおして自立を目指す主体的活動に重点を置いた教育を展開した。 ○同和問題に関するワークショップ形式の校内研修会を開催した。今後も定期的実施していく必要がある。 ○法令遵守や一人ひとりの人権を尊重した生徒との関わりや職場環境づくりのための研修会を開催し、発達支持的生徒指導の具現化に努めた。
次年度に向けた改善の方向性		(1) 今年度の成果を生かしたより効果的・効率的な授業改善の取組を継続して推進していく。とりわけ全教育活動を繋ぐカリキュラムマネジメントの手法により、教育効果を高めつつ取組や行事のスリム化を図っていく。また、課題となっている「指導の個別化」について、様々な教育資源を活用しながら、「誰ひとり取り残さない教育」を展開していく。 (2) ICTを活用し、作成文書のペーパーレス化や軽量化、廃止等、校内の業務改善を強力に進め、業務を軽減しゆとりをもって生徒指導や学習指導を行える環境整備を行っていく。		